

FM English Basic Report

FM3 期生 C グループ

背景

日本において適切な Academic writing を学ぶ機会というのは、大学でもそう多くはなく、実際には学術論文を書き始める際に独学で学ぶというケースが多い。しかし、実際に独学で学ぶこと、あるいは上司から教えるを乞うだけでは体系的な学びとしては不十分であり、いちいち文法やルールを確認していたのでは論文を書く作業に集中することが難しくなってしまう。また、日本において国際共著論文数は伸び悩んでおり、他の国よりも相対的な存在感が低下しつつある状況である（図）。実際の研究現場の課題もさながらこの Academic writing の基礎の欠如という部分にも大きな問題があると考えられる。われわれのグループも決してこの分野の知識が明るいとは言えず、Academic writing は必要不可欠な学習事項であった。

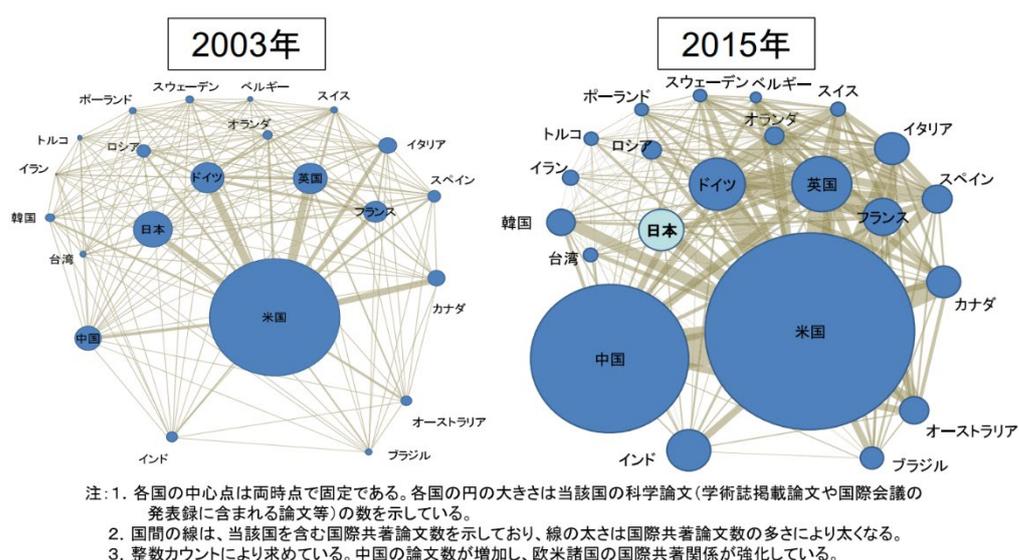


図 論文数と国際共著論文の動向の変化

目的

本講義受講の目的として以下の3つを定めた。

1. Academic writing の基礎として、英文表記の際のルールを学ぶ
2. Oral presentation の基本と、いかに相手に物事を伝えるために工夫できるか
3. 実際の Presentation を通じて、何ができるようになり、何がまだ実践として足りないかを明らかにし、今後の自主学習の目標設定に生かす

授業内容

授業は8/2~8/6の計4日間、午後1時から5時の間でZOOMを通じたOnline講義で行われた。基本的な講義体系としては、「Academic Writing Fifth Edition (Stephen Bailey)」に基づいた形で各項目についてMs. Marieよりレクチャーを受け、その後ブレイクアウトルームで小グループでのディスカッションと問題回答を行った。Inputをメインとする形の講義形式では、剽窃の定義や種類、英文記載における各種のルール（数字記載のルール、単数形・複数形のルール、受動態・能動態の使い分け、aとtheの使い分け）などに加え、Presentation componentとしてのIntroductionやConclusionを

如何に効率的に提示するか、といったような項目を学習した。Output の場としては、各講義での Discussion に加えて、最終日の Oral presentation と Evaluation にて自身の研究内容を簡潔に聴衆に説明をする、かつ相手の説明を簡潔にまとめるといった形で訓練の場を頂いた。

結果

FM English basic 全体の講義から、我々は Academic writing の基本、型というものをまず学び、かつ剽窃について詳しく学んだ。グループ内に研究倫理の海外大学院受講の経験者がいたが、海外では必ずといっていいほど Plagiarism について学ぶはずなのに、実は日本ではその機会が驚くほど少なく、恐らくこのような English lecture を受けない限り正しい知識がつかないものと考えられる。この中で Reference や Quotation という、当たり前ながらも、論文を書き慣れていない日本人の多くが正しく使いこなせておらず、Plagiarism につながりかねない部分に関して丁寧に解説を聞き理解を深めることができた。

また、一見簡単に思える a と the の使い分け、複数形か単数形か、などといった文法的ルールについての理解も深めることができた。この部分については実際に自身でも間違えることが多い箇所であるため、その単語ごとの使い分けと、a と the においてはルールに基づいた適切な使い分けに慣れていく必要があると感じた。

このような basic (だが実際には我々が正しく理解していない部分) から、実際に英語での Presentation を効率的に行う方法としての内容構成と、どのような情報を含めるべきか、どこから作り始めて Presentation の形を作っていけば良いかということから、実際に話すときにはどのようなトーン、どのようなスピードで話せばいいか、間をどのように取ればよいか、という会話の Technique についても聞き、実演の場も頂いた。それぞれが自身の研究テーマについて、完璧ではないにせよ話すことができ、相手の Evaluation もそれぞれに行うことができた。恐らくこの点においてはたった 4 日間ではあるものの、各々大きな進歩が見られたと思われる。

また本講義は ZOOM というオンラインシステムを通じて行われた。昨今のコロナウイルス感染症の状況ではこのようなビデオシステムを上手く使えることも新しいニーズとなる。その点においても非常に勉強になった。

研究や仕事に生かせる点

講義の後半では Academic writing に関する知識だけでなく、広く一般に効果的な Presentation のコツについてもレクチャーしていただいた。また、北米出身である Ms. Marie からみた日本人が陥りやすい、良くない例についても教えていただき、日常的に我々が接することのない他の国の人々からどのように見えているかを意識する必要があることを認識するよいきっかけになった。これは研究に限らず、他の仕事についたさいにも使えるはずである。

限界点

どうしてもそれぞれの理解度にばらつきがあり、完全に同じ学習習得度を得るのは難しいこと、今回は 4 日のみに留まった講義であり、今後 English presentation の技術を

高めるためには継続学習が必要である。その点に関して自身での学習を続けなければならない。今回 Toastmasters という Speaking training の場があることを教えてもらったので、機会も利用していきたい。

結語

この 4 日間を通じ、Academic writing の基礎を学びながら Output を行うことでの、English presentation の面白さを実感することができた。学びの場は 4 日間という短い期間であったため、各々自身にとって有効な方法で英語の学習を継続していきたいと考える。

引用

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/07/1384930_04.pdf